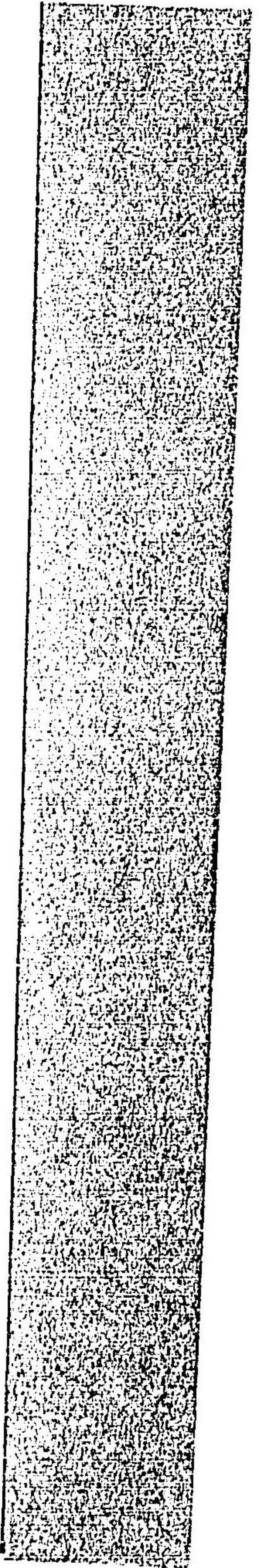
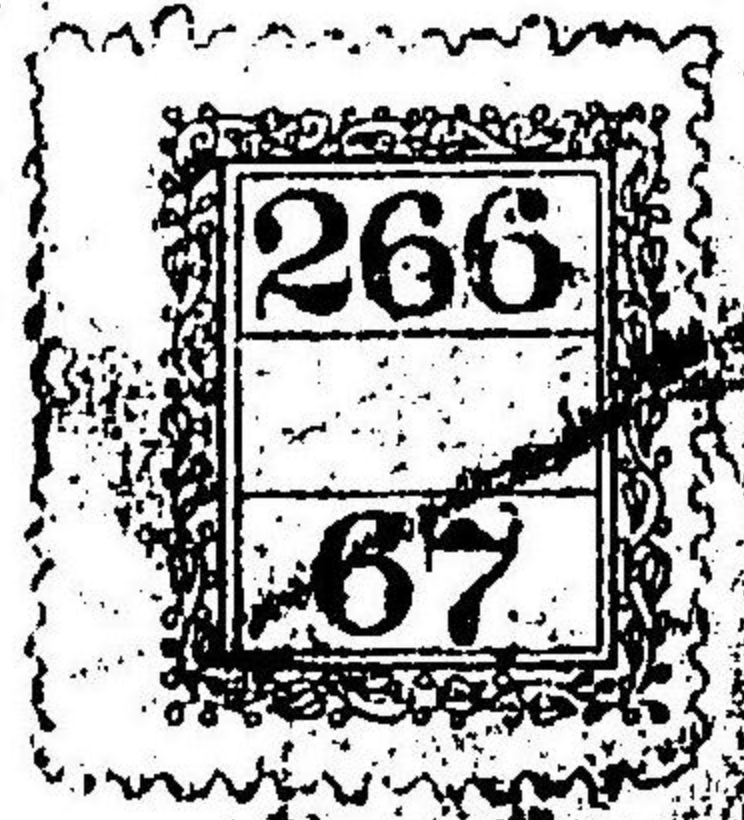


S-70

徳島縣の唯一と嚆矢



特53

372

山
杖
河
景
端

44.4.7

明治四十四年

三月

煙里



白頭の豕、遼東之を異とす、而も河東に至りし者は、遂に顧みざる也。耶馬溪の勝、土人之を思はざるに非ず、而も子成を待たざれば、天下に誇る可きを知らざる也。是を以て、永州八記は永人の手に出です。赤壁の二賦用黄人の筆に成らず。氷蠶は寒を知らず。蓼虫は苦を解せず。凡そ天下の事物、博く覽、洽く聞き、遠く搜り、深く察し、互ふ比較研究せらるに非ざれば、其の長短を知り、美醜を分つ能はざる也。

五明文庫長柏木直平君。其の事業の爲に全國を漫遊し、内地と新領土とを問はず、足跡遂に滿洲に及ぶ。殊に其の郷土たる徳島縣に至りては、神社佛閣名勝舊蹟官衙公署一々歴訪し、五口の村、十戸の邑も究めざる所なく、學校青年會に於て、講演する者前後七百回、力充たりと謂ふ可き也。乃ち各地を就きて、縣下に於ける唯一の物と、嚆矢の事とを撰出して、一簡短なる説明を附し、以て其の地方の人士が、自己の郷土に於ける事物の價値を自覺する資料となせり。蓋し君は、我が徳島縣の計量器あして、本書は依りて示されたる標準物價表と謂ふを得べき乎、夫れ各府縣、統計の書あり、名勝誌地理誌の著亦存す、而も身近日用の

事却て録せられざる者多く、朝夕目睹の物尙究むるに由なきと有り。所謂尺も尙足ざる所あり、寸も長さ所ある者か。本書の如きは、正お其の闕を補ひ、一斑と擧げて全豹と窺はしむるもの、其の要を得たるよ於て、或は彼の尨大の統計書名勝誌地理誌に勝る者あらむ。

明治四十四年二月

涓水の陰に於て

風 露 朗 識

趣味教訓両全の本書が理想神來的奇援の觀察眼に拍案一番を禁せざると共お著者が精力の非凡に驚かざるべからず而かも本書の賣得金全部が理想的社會事業に資せらるると言ふに至つては吾曹將亦何とか言はん 坐右よ一帖を備へて諸子々闔縣鄉關此今昔一端を窺知する事の如何に愉快あるかよ長夜短檠と擧げて徒然に悶ゆる時試に繙いて熟讀玩味せば實に微笑を禁せざると共に何物か得る處有や必せり
頃者坊間嚮ぐ所の著作汗牛充棟も當ふと雖各階級を通じて讀破さるゝものに至つては多く柔弱思想の化身にして汎く吹聴するを得ず本書の如きは眞個推獎するに足る敢て江湖に薦む

明治四十四年二月

芳水 宇 山 好 實 序

予は縣下脚大的旅行を試み二年間に三千余里を歩み一市百三十八町村六百四十八大字を跋涉し到る處に小學校縣立學校及び有志青年會に於て演説を成したること上百回に及びたり其間折々觸れ穢に乘じ森羅万象を實見したる結果の一部分を抽象し縣下に於ける唯一と嚆矢と名づけ上梓せることとせり固より十分の研覽を重ねたる者に非ざれば杜撰誤謬をあらんも計りれず其は訂正に容ならざるを以て大方諸氏の斧正指教を請ふ

明治四十四年二月

五明文庫長 柏木直平

凡例

- 一、略ぼ全一のものは二つ以上列挙したり
- 二、郡又ハ數郡に關係するものは全般の部に入れたり

全般の部

開拓効勞 天の富命最も効勞あり
 粟守始 日本武命の皇子息長田別命の子孫なり
 大なる物産 農産物は一千四百九十四万余あり
 大川 吉の川は流長三十余里なり
 大 山 劔山は海拔六六六〇尺あり
 養産 國 往昔上系國と言はれ三河伊勢と並べり
 産 藍 始 寶永元和年間に栽培起れり
 洋牛購入始 板野郡農會購入のシンメンタール牛なり
 平面多き郡 板野郡は本縣にて平面多し
 急流の川 流勢傾斜は名東郡園瀬川字り
 冬水無き川 冬期水無き川は海部川なり
 面積廣き郡 海部郡最も廣し
 林業 適地 那賀川上流最も適地なり
 共同苗代摸範 那賀郡農會の施設なり

彰善會摸範 勝浦郡の彰善會なり
 忌部種族研究地 山崎より貞光端山の間なり
 用水 完全 麻名用水は延線一万四百十間用水千三百町あり
 面積狭き郡 阿波郡は最も狭し
 海岸線多き郡 板野郡は海岸線多し
 衛生思想普及 景品を與へ集合を計り講話せしは勝浦郡なり

徳島市の部

地方長官始 北垣國道氏始て就職せり
 最古の鉄橋 明治十三年六月架設の新町橋なり
 端艇始 徳島中學校は明治二十九年九月購入せり
 銅像 大 瀧の山の神武天皇御銅像なり
 銅像の古 瀧の山の不動尊なり
 師範學校長始 明治十年四月山田樂氏就任せり
 慈善食卓 明治三十九年太栗氏が本縣慈惠院の爲め執行
 數學の効勞 阿部有清小出由岐左衛門武田丑太郎三先生なり

温室始 率先之を成せしは西川漸氏なり
 地方裁判所長始 明治二十三年十月中澤重業氏就任せり
 検事正始 全廿三年十月岡部綱紀氏就任せり
 圖書館始 明治十八年徳島中學校附属にて開館せり
 林業會長始 明治三十六年二月龜井英三郎氏就任せり
 石馬 三島神社にあり蜂須賀時代なり
 木獅子 神明社にあり古色愛すべし
 殿下御手植始 小松宮殿下明治卅三年三月師範校に御手植ありたり
 門の美 本行寺の門は結構三百年に近き建築なり
 世界一周者始 朝日新聞主催世界周遊會に入りしは井内太平氏なり
 文學博士始 文學博士は小杉温郎先生なり
 數學家 林鶴一先生は日本一なり
 陸軍武人 初めて陸軍中將となりしは上田閣下なり
 榕樹の大木 師範學校前庭にあり
 槍鏢名人 斯伎絶倫は淺山一傳流の渡邊源八氏なり
 武器匠 斯伎上手は中八幡平藏氏なり

鞍匠 技術上手は辻壽作氏なり
 庭造匠 技術援群は土橋繁作氏なり
 盆栽匠 益景鉢山上手は土橋茂八氏なり
 大工名人 技術妙手は柴山と号し名は利作なり
 金彫匠 妙技絶倫は野村政吉氏なり
 東西屋 音聲雄辨は中原政太郎氏なり
 長髮 市會議員井上達三氏は長髮數尺あり
 三等局劇務 事務多忙は仙谷三等郵便局なり
 法律學士始 研究深き岩野新平先生なり
 快走瀟船 共同會社の第十一共同は美的迅航なり
 週走瀟船 共同會社の徳島丸は鈍航なり
 士族商業始 維新廢藩後直にせしは赤川直衛氏なり
 精神的美術家 故實理論に堪能畫家は湯淺茂胤先生なり
 正易者 卜筮界の泰斗は桑田久太郎氏なり
 斬髮の始 明治二年着手の赤井米藏氏なり

町幅廣き 德島縣廳前と營所前最も廣し
 韻文家 新体詩精通家松永周二氏なり
 十字社の始 該社創立は濱口忠三郎氏明治十二年なり
 慈惠院の始 明治三十二年十一月創立院長小倉久氏なり
 石門大 監獄署正門は花崗石なり
 監獄署始 明治十三年二月典獄小松原助彦氏なり
 漬物倉完全 煉瓦造地下室は監獄署なり
 法官の成功者 大審院檢事総長松岡康毅氏なり
 爵の高き 授爵の高きは侯爵蜂須賀茂韶氏なり
 製圖家 本縣圖界の妙手は山瀬親長氏なり
 海送業の始 明治初年阿攝航路開基は小西彌平氏なり
 漢學家 斯界の泰斗は那波魯堂先生なり
 文章家 流麗圓轉は芝碧海先生なり
 天井材の大 蜂須賀侯爵家の大材料なり
 運動場の廣き 德島中學校運動場は五千四百二十三坪あり

長き町 佐古町は長さ十六町あり
 歴史ある泉 蜂須賀侯爵家渡部綱の泉なり
 縣農會の始 明治三十四年七月會長は石由眞二氏なり
 繭糸會長始 全年九月支會長は渡邊勝三郎氏なり
 愛國婦人會始 明治三十四年中込は祖川くみ子なり
 愛國婦人會始 明治三十四年六月幹事長小倉久氏なり
 教育會始 明治廿一年四月會長は酒井明氏なり
 高齡者 佐藤タカ氏は文化二年三月生なり
 武徳會支部長 明治三十一年十二月山縣伊三郎氏就任せり
 机上堆積家 机上圖書新聞堆積は小倉法華庵なり
 良き料理人 調理方の巧手は淡虎氏なり
 電話申込始 三十九年五月八日美馬儀一郎氏なり
 商業會議所會頭始 三十年一月廿五日吉見宗二氏就任せり
 畫家褒狀始 明治十五年十一月魚淵畫伯に玉はれり
 代言人の始 明治九年松本武夫氏始てなれり
 手水鉢大 千秋閣備付は宏大なり

構内棟敷多 監獄署建築棟敷百三十五家あり
 看守勤績者 多谷源五郎氏は明治十四年五月就職なり
 蒸氣唧筒大 堺紡績會社備付は大なり
 蒸氣器械大 堺紡績會社備付は大なり
 堺紡績會社始 明治二十年七月創立社長宮本谷藏氏なり
 機 の 多 堺紡績會社備付は二百臺あり
 自用電燈始 全社用電燈六百あり明治二十年七月の創立なり
 椏椰子大木 陸山鉦公氏邸内に大木あり
 磁石大 金刀羅神社境内備付は大なり
 おしめ大 全社備付は最も大なり
 提灯大 全社備付は最も大なり
 冷水鼓吹家 義氣に富める關生三先生なり
 手工教師始 手工科普及家は田中棟八先生なり
 洋服業始 明治初年加納仲藏氏は率先なり
 旅館の完備 平龜樓志摩源鶴龜など完備せり

寫眞妙手 斯界の妙伎は立木信造氏なり
 書店の古 西新町黒崎靜壽堂は大書店なり
 鐵道の始 明治廿九年鐵道敷設社長大串龍太郎氏なり
 工業卒業始 明治三十八年染色板東彌三郎木工板東眞燈氏なり
 演説家 流辨家としては吉田燕六氏なり
 電燈會社始 明治二十七年十月創立社長大串龍太郎氏なり
 蒸氣鐵馬力多 二百馬力は電燈會社備付なり
 井溝大 長五間幅貳間深二十二尺は電燈會社にあり
 赤十字委員始 明治二十年委員長酒井明氏就けり
 全社社員始 明治二十年十二月有志として渡邊勝重氏なり
 看護婦の始 明治二十八年四月吉本いわ子始て卒業せり
 名高き庵 常盤庵は由緒経歴建築最も宜し
 聯隊司令部始 明治二十九年四月一日司令官中島謙吉氏なり
 柘榴石 眉山にあり日本一と稱す
 鐵物の豊富 眉山ほど種類多きはあらざるべし

さばたん敷多 西川漸氏の栽植多し
 岸 派 畫 三木恒山全春暉先生は大家なり
 英 學 語學に精通は井上十吉先生なり
 洋 畫 洋畫の明星は三宅克巳先生なり
 將 棋 小野五平氏あり
 工學博士始 山田要吉先生あり
 低 地 富田浦町の東部ハ滿潮以下なり
 良 苗圃 縣苗圃は完全にして徳島町にあり
 水質善良 錦龍水なり
 搾乳業始 率先者は蜂須賀淑夫氏あり
 大楠木敷多 溜山一帯古木百余本あり
 人工築山 公園内千秋閣の東部は庭造の活手本なり
 畫 家 筆力雄健の守住貫魚先生なり
 女 畫 技藝員野口小薺女史は巨擘なり
 詩 人 天下の大家本田種竹先生なり

書 家 筆勢圓轉の貫名松翁先生なり
 大 新聞 徳島毎日新聞は發行紙敷多
 相生の松 觀音寺境内より雌雄抱き合へり
 畫き表装 善福寺涅槃像は廣輝の揮毫あり
 二 博士 長井有義先生ハ理學藥學兩博士なり
 兄弟學士 横井實郎藤本鑽太郎氏兄弟三人學士なり
 梁行長き校 徳島高等校の梁行十間なり
 エキス光線 全校の二百三十九圓の器械は完全なり
 無線電信 全校れ五百三十圓の器械は完全あり
 行 司 孝心深き木村庄三郎氏なり
 改 良 劇 秋月憲太郎山口定雄氏は妙優なり
 手 品 天一の手品は奇々妙々なり
 女 武術家 劍術柔道は安田さん女史あり
 鳴門和布販賣 販賣廣告に効勞は藤井松次郎氏あり
 店に客多きは 橋筋の湊屋なり

詩 繪 飯塚觀松齋あり
 藥學得業士 藥學進歩せざるどきに先驅せしは割石貞二氏あり
 瀝病豫防所始 明治四十二年三月の創立なり
 遠 磨 多 三木寸氏は遠磨像數百を有せり
 參考書多 小學校にて參考書多きは徳島高等校なり
 訓導の高級 全校藤本訓導の二十七圓あり
 鐵工所大 明治鐵工所規模大なり
 模範職工 三村うた女は婦女鑑として織物に従事せり
 皮膚病醫學士始 専攻者は寺澤潤二氏あり
 産科醫學士始 該専門の三谷要氏あり
 電話使用多 徳島縣廳の使用回数多し
 慈善事業功勞 慈惠院を始め終始盡すは北條義雄師なり
 歴 史 町 免許町は藩政時代免税地なり
 眺 望 佳 眉山一帯何れも絶景なり
 高 石 垣 諏訪社金刀羅繪馬堂端山校松永左馬藏氏あり

内科醫學博士始 専門大家は古川市次郎氏あり
 染色効勞 染色界に貢献せしは美馬儀一郎氏なり
 大松の良き 瑞嚴寺境内の大松は雅なり
 石階急勾配 忌部神社の石階とある
 棺 桶 生前棺桶作成は答島真相師あり
 鼻耳咽喉學士始 専門は小室要氏あり
 古書多き學校 小學校にて古書保存は寺島尋常校なり
 造船所多 福島町一帯は造船所多し
 牧 畜 牧畜に成功せしと關寛齋氏あり
 眼科醫學士始 醫學士藤本鑽太郎氏あり
 患者多き醫士 得業士住友次郎氏は患者一年累計四万六千余あり
 勅任官の住宅始 徳島町の曾我部道夫氏なり
 陸軍少將の住宅始 徳島町の渡邊勝重氏あり
 人類學者 斯學に造詣深きは鳥居龍藏先生あり
 硯文作者 硯文數百と作成せしは岡本斯文先生なり

易學文學士始 易學專攻と岡本日昇先生あり

彫刻家 彫刻は妙技を揮へるは島田丈五郎氏なり

靈符鈴 妙典寺にあま加藤公所有なりと聞けり

陣鉦 淨智寺にあま南蠻鉄琉球城にありありあり

舊高取屋敷 百石以上三百人中舊屋敷存すは淺野八呂氏なり

校内の老松 時代老樹のあるは寺島尋常校あり

泉多き校 小學校にて六個あるは全校あり

學校園工具 工具整頓は全校あり

帶鋸式始 使用を始めしは工業學校あり

鉤削兼割物器 價格三千圓の器は全校にあり

細子機始 價格三百圓余全校あり

標本家屋 石礎、天井、壁、坐板盡く標本は全校にあり

軒高き家 立木寫真館三十六尺地方裁判所三十四尺あり

蒸氣風呂始 明治三十年堺紡績會社が使用せり

こんくろ建築始 明治二十九年徳島鐵道が使用せり

しるつと製造器 價格六百五十圓は工業學校あり

自由給品室 紳商美馬備一郎氏寄附にて商業學校にあり

藥局の整理 古川病院の整頓第一あり

那書記の始 明治十年十二月廿八日赴任の園田實氏あり

學校卒業齒科醫 系統的學校卒業は遠山義雪氏あり

古き經師 寶曆年間より經續の篠原安右衛門氏あり

盲啞教育始 五寶翁太郎氏は明治三十二年十月開始せり

金庫大 商業銀行金庫は高さ六尺五寸幅四尺三寸余あり

古き銀行 明治十五年五月七日創立の徳島銀行なり

市の盛大 徳島戎市と阿波の虚空藏市賑やかなり

鐵柵の美 地方裁判所は距離長く完全なり

効績狀の始 教育者として箕浦喜佐太郎氏なり

玄關の大 監獄は規模構造大なり

門の長さ 縣廳の正門は長距離を有せり

石彫家 技術精巧は萩原繁次郎氏なり

敷地均多額 學校中多く支用せしは新町小學校なり
棟數多き學校 小學校にて二十七棟は全校なり
洋館の始 明治九年四月建築の新町小學校なり
冠の始 東條謙升先生之と爲し始めたり
鐘の大 徳島公園内の鐘は巨大なり
胎兒標本 富田校の三月胎兒は好資料なり
最初校長 明治十七年六月辞令は松原庸吉氏なり
びやくし長 天野政太郎氏の庭にあるは長八間余あり
雨中体操場大 小學校より面積五十六坪は寺島尋常校なり
古き小學校 明治四年六月設立の全校なり
遺言寄附 亡父遺言にて公共より多額寄附は古川醫學博士なり
葬送の莊嚴 善美と莊嚴古今比なきは故古川修一氏なり
古錢の家 古錢と汎く蒐集せしは古川修一氏なり
ナル効勞 斯業に効多きは井内龜次郎氏なり
度量衡効勞 創立古く販路廣きは藤村九平氏なり

資本多銀行 阿波商業銀行は資本五十万圓なり
銀行業効勞 本縣銀行業に盡せしは大串龍太郎氏なり
遠洋功勞 谷直吉氏が朝鮮に活躍せしにあり
肥科 本邦より率先せしは美馬豆粕株式會社なり
兄弟留學始 古川醫學博士古川軍醫正なりとす
面積廣き病院 古川病院構内最も廣し
園基 烏鷲戰の名手は田中小八高井幸雄氏なり
家賃一定 家賃高低なきは曾木嘉五郎芝嘉久太氏なり
林業家 植林販路發明に養成に勉むは太栗彦太郎氏なり
子弟多 弟子孔子を凌ぐは岡本斯文先生なり
金庫開技手 川崎鐵工所の箕浦嘉代藏氏なり
鑛監手 明治鐵工所の松家長吉氏なり
正面盤 價五千圓徑十二尺余明治鐵工所にあり
寄宿舎大 師範學校の規模大なり
附屬校大 全校の附屬は日本一學級多し

愛 瓢 家 俗瓢雅瓢陳列瓢蒐集者は岡本斯文先生なり
 栗國歴史家 斯學を多年研究せしは田所市太氏なり
 海軍武人 海軍少將伊月一郎氏なり
 長き校舎 師範學校校舎は六十三間あり
 徳島中學校長始 明治十二年岡本斯文氏就任せり
 染色工場始 福井佐平氏率先之を奨励せり
 市會議長始 明治廿二年十一月山田樂氏就任せり
 織創業者 安部重兵衛海部はな両氏なり
 織販路者 高石清次郎氏最も効あり
 公証人始 明治廿二年四月岡田玄吾氏就職せり
 執達吏始 明治廿三年十月小野寺素行氏就職せり
 節無き家 松永嘉平次氏は本宅なり
 多額を要せし家 板東嘉太郎氏は本宅なり
 音樂書多 三箱所有の古田多喜藏氏なり
 高等女學校長始 明治二十年岡本斯文氏就任せり

ピアノ始 全校に始て購入使用せり
 女記者始 毎日新聞に武田あさ子入れり
 年長代議士 岩本晴之氏は日本一なり
 科學的橋 最近科學應用は富田橋なり
 歴史的橋 公園内蜂須家義傳公は踏み折り橋なり
 工業學校長始 明治三十七年二月吉田佐次郎氏就任せり
 黑板使用始 明治六年師範學校に使用せり
 縣農會始 明治三十四年設置せり
 國書藏書家 早雲眞澄先生遺書多し
 漢書藏書家 那波先生は遺書多し
 洋書藏書家 芝嘉久太氏藏書夥し
 商業學校長始 明治四十二年三月黒沼義介氏赴任せり
 辯護士の始 明治二十六年五月大島四郎氏なり
 法學辯護士の始 大學出身は大谷源之助氏あり
 繪馬堂 金刀羅神社が宏壯なり

單級に始 本縣師範學校は日本に始めなり
 發句家 茶雷六外庵先生は大家なり
 金紅石 眉山よ採掘をべし佳品なり
 市長始 明治廿二年十一月井上高格氏就職せり
 こしと多 本縣師範學校に九個所あり
 手工教場 全校の設備は完全なり
 頁公園 島島公園の設備完全なり
 燈籠多く所持 蔭山鉅公氏の百個余と所有す
 煉瓦 蔭山鉅公氏は巨金と要せり
 ねり 監獄署は長大にして立派なり
 眺望閣 蔭山鉅公氏の所有は宏壯眺め宜し
 天井意匠 全氏の天井と二十有余材と用ゐ張方殊あり
 南宗畫 南宗は大家の藤重春山木内直秋先生あり
 鑄像家 銅像製造に巧妙なる石川浩洋先生なり
 會社成功者 北海道炭坑會社の宇野鶴太氏なり

櫻の名所 眉山一帶殊に桃山を最とせ
 俠客 市川利喜藏氏なり
 杓 善七杓名高し
 餅 瀧の焼餅は佳味なり
 縣社 春日神社は森嚴と宏壯を併有す
 門板の大 公園内鷺の門は楓一枚板なり
 刀 海部藤は名作なり
 武器所有多 日本古代式武器所有は高松虎太郎氏なり
 測候所の始 明治二十四年四月一日一等測候所を始めたり
 信号完全 渭山ふある警報暴風天氣の信号なり
 屋下墜道 地方裁判所の墜道延長三十五間あり
 郵便局の始 明治五年七月一日徳島郵便局と置く
 電信の始 全十年十二月十五日全局あり
 局長の始 明治二十二年七月保富正三氏就職せり
 煉瓦家屋始 明治二十三年六月徳島郵便局落成せり

電話の始 全四十年三月廿六日開始せり
 洋行の始 幕政れとき洋行せし鵬雲原一助氏なり
 馬術家 上田某岩田七左衛門氏は御者の逸物なり
 弓術家 武藤左膳氏は百發百中の名人なり
 洋館の美 多額を要し美的は三浦病院なり
 醫學士の始 明治九年卒業の三浦浩一氏あり
 病院の始 明治十一年創立の舊病院あり
 外國電報使用多 毎日使用數多きは共同汽船會社なり
 高さアーク燈 四十五尺の共同汽船會社の設置あり
 噸數多き汽船 第十共同丸は六百四噸明治三十八年の進水あり
 汽船製造の始 明治十九年十一月進水の阿津丸あり
 荷揚機械 共同汽船會社ういんちは貳千余圓と要せり
 顯微鏡れ始 明治十九年衛生課は北里博士に托して購入せり
 巡查の勤績者 明治十年拜命勤績は廣瀬丑太郎氏なり
 私立學校の始 明治二十年六月一日設立の友徳學校なり

私立裁縫校の始 明治廿八年七月十九日設立は村崎裁縫校なり
 共同會社長の始 明治十九年十一月就職の川眞田市兵衛氏なり
 煉瓦煙突高 堺紡績會社の九十尺は高し
 四洋形船の始 舊藩時代五稜廓を攻めしけいげん丸なり
 篤行家 品性徳行の卓越せる福田林右衛門氏あり
 伶人家 神人來舞の妙技は大崎城悦氏なり
 蘭學者 斯學に深きは高畑五郎先生なり
 巡航船の始 明治三十五年天野龜吉氏徳島撫養間に設けり
 私人公園 眉山桃山よ百花を植ゑ遊園とせしは天野龜吉氏なり
 平家學校始 明治二十六年十二月建築は福島校が完全なり
 書畫珍藏家 無盡藏の説あるは森直次郎氏なり
 幼稚園の始 明治二十六年三月師範校に齋藤いく子教授せり
 古き新聞社 明治初年普通新聞の發行を始とす
 中學校卒業始 明治十四年五月山本辨作氏卒業せり
 四階建築始 新町橋畔に市川算氏建築せり

師範校卒業始 明治八年三月渡邊直一郎氏卒業せり
 卷の 大 岳飛の筆跡保存は高野鐵崖氏なり
 應舉れ軸頁 鯉若竹三幅對保存は森六郎氏なり
 貧兒教育始 明治三十二年美馬儀一郎氏の寄附にて佐古校に開けり
 新式雨中体操場 科學的新式建築は佐古小學校なり
 水注黑板机改良 實用と經濟衛生の三秀は全校あり
 運動場の小山 兒童が登臨れ天性を利用せる小山は全校なり
 奉置所の立派 莊嚴結構開然なきは全校なり
 救護室完全 救急的施設宜きは全校なり
 女學校卒業始 明治三十七年三月吉田とみ子卒業せり
 女子師範卒業始 明治四十二年三月露木美久仁子卒業せり
 古銃保存家 小西銃砲店に數多保存せり
 位牌の大 興源寺の蜂須賀家位牌大なり
 特賜号僧侶 學徳悟了は玉淵春叢兩師なり
 薄機械始 明治八年五月島田甚太郎氏發明せり

褒状多 紳商美馬儀一郎氏數多受領せり
 外人住宅始 明治初年勢見觀音寺に住居せり
 小學校厠頁 六角形の造り完全なるは福島校なり
 小學校の大松多 參差たる大松多きは全校あり
 倉庫の大 縣廳の三十間を倉庫の大なるものとす
 無線電信使用始 航海中發信使用者は井内太平氏なり
 古き産科醫 天明年間開業の賀川玄悦氏なり
 小笠原諸禮家 斯道の大家は吉井直壽氏なり
 洋式自轉車始 明治三十年一月購入は前田利行氏なり
 能樂小鼓方 堪能家は生駒信近氏なり

名東郡の部

○加 茂 村

銅 牛 大 田宮天神と北島村天神社は雙壁なり

○八 万 村

さつ き 多 養老軒のさつきは大小數十株あり

灣 入 景 沖濱村潮水の屈曲得も言はれず
隸 書 家 尾關甲子次郎先生絶妙あり
散 山 の 景 圓形共益山田園内に點綴せり
二十一尖秘藏 故雅野傳次郎氏の藏は浩澹なり

○齋 津 村

鹽 湯 三景樓は海に臨み好適地なり
淨 瑠 璃 昔れ染太夫は日本一となれり
陷 落 地 お龜千軒は往昔地震に陥落せり
漁 具 標 本 津田校れ漁具は廓大且つ完全あり
池 形 庭 造 東條芳藏氏窪庭は風雅あり

○加 茂 名 村

聖徳太子傳歴 本願寺にあり國寶に屬し逸品なり
小口製糸場 小口卷太氏の經營は年四千貫を製す
農事試験場 縣立にして明治三十六年四月の創立あり
旅 團 長 始 陸軍少將太田榮次郎閣下なり

聯 隊 長 始 陸軍歩兵大佐橋口勇馬殿なり
農業學校長始 農學士木戸辰三郎氏なり
穀 物 標 本 五百余种保存は農業學校にあり
農學校卒業始 明治四十年三月高石萬兵衛氏なり
縣下農具摸型 全部備付は全校なり
戦利品保存 六角形の箆筒に莊重に保存せり
養 蠶 室 完全ある構造は全校あり
廣き實習地 三町四反九畝余は全校にあり
珠鷄飼育始 農業學校に始て飼育せり
老 農 夫 全校に勤務の大坂大吉氏なり
佛像彫刻家 釋堅雄師の刀法は氣品高尚あり

○沖 の 洲 村

海水浴場 關先生の發意にて位置設備可なり
害虫効勞 豊田甚三氏は明治三十七年以來の功勞あり
三 角 洲 芳川の吐口に當り三角洲の標本あり

○新居村

屠牛場 設備完全衛生に適應せり

海防費 故久次米兵次郎氏は該費に一万圓義金せり

不動尊 賽人常に多く不動市殊に賑し

褒狀多校 新居小學校は教育品の褒狀數多あり

教相家 佐伯旭雅上田照遍兩師は斯界の大家なり

○上八万村

形式的橋 石造にて太鼓形に作り一宮社前にあす

軒下學校園 一宮校と西麻植校とは何れも範なり

國分寺 研究寺院にして古瓦堀るべし

郷社の古 古宅神社は祭神最も古し

徳行の僧 井具智賢師は學徳兼備なり

○佐那河内村

青年會堂 本村の青年會堂は堅牢と實用の標本なり

良風俗 嵯峨の風俗は淳朴敦厚無爲に化す

暗森 林 本村森林白晝暗く不思議と言ふへし

○國府町

射場 富松武助氏は前庭にあり善美盡せり

分類學校園 國府小學校は圓形中心総合とし分科井然なり

骨相家 人形忠吉富米洲氏は鑑識に拔群なり

歡喜天 本町は路傍にありて建築大なり

水産試驗場 縣立にて三十七年の創立五段歩と池二十五あり

國府廳趾 本町一帯數十ヶ所にて考究すべし

厠の完全 建築に多額と清潔は原田佐之次氏なり

○南井上村

耕地整理始 本縣にて率先工事に着手したり

櫻間の池 大内家に生きたる櫻姫の舊蹟あり

一木一体佛大 一木にて彫刻巧妙は妙照寺の本尊なり

○北井上村

事相家 藏珠院老僧は造詣せり

勝浦郡の部

○小松島町

婦人縁綬章始 西野はる子は賢婦人なり

避 雷 針 西野嘉右衛門氏石原六郎氏は無缺なり

資 産 家 西野嘉右衛門氏は納税額第一なり

離 坐 敷 前坐敷面積廣きは全氏なり

害虫標本家 標本蒐集家は全氏なり

楠の庭木 中庭に楠一本のみは全氏なり

店則正しき 傭人を保護し店則正しきは全家なり

遙 拜 所 敬神愛國の爲め設けしは多田勝太郎氏なり

海面埋立 敷代捨石にて國益と興せしは全氏なり

町役場大 小松島町役場は規模廣大なり

町長の代議士 代議士たりし湯淺貞太郎氏なり

町長の素養 専門教育と修めしは島田雅雄氏なり

講堂完全 講堂の完全なるは小松島小學校なり

清潔校舍 千代校と板西校は洒掃行届ける雙玉なり

部落改善 小松島の龍谷と高川原は改善の實蹟あり

部落改善者 能仁達朗師の熱心と雄辨は燈明臺あり

義經上陸地 該地にて旗を旗山に掲げたる地あり

米 麥 産 額 多量と輸出産額を有とは全地なり

有 望 港 將來繁榮の兆候あるは小松島港あり

藍 効 勞 西野謙四郎川真田市兵衛両氏なり

佛 壇・美 佛壇の輪奐は宮本谷藏谷伊七郎両氏なり

多額納税者多 西野両家宮本谷藏多田勝太郎四氏あり

道しるべ寄附 故生島伊之五郎氏は至る所數百と寄附せり

へで盆栽多 見事なる者と多田勝太郎氏なり

小作奨励良 種子配付肥料資本農書貸與は西野家なり

持 合 橋 先鞭架設せしは多田勝太郎氏なり

四 條 派 畫 斯界優美の筆力は松浦春學先生なり

十六羅漢大 木像の大なるは地藏寺にあり

笠松 大 大にして笠松式老松は全寺にあり
養老會 本町の養老會は模範的なり

○勝 占 村

村長の高齢 村長井上万吉氏は天保四年生あり
二度の行賞 全村長は二度藍綬章と賜はりたり
人工排水工事 關係八十四町延長九百六十七間の工事なり
藍綬章の始 明治二十六年三月十五日賜はり井上万吉氏なり
散在的梅林 至る所梅林を出て満ちたるは大谷なり

○多 家 良 村

輪藏 丈六寺にあり一切經と藏と廻轉自在なり
墓の 大 全寺にあり大石を用ゐる宏大なり
大なる佛像 壹丈六尺の觀音は丈六寺にあり

○生 比 奈 村

良 本村の米は品質佳良なり
隕石 全地の星谷にあり研究すべし

鏡石 全地の飯谷にあり好標本なり

岩窟の 瀧 瀧頂瀧は奥行二十三間面積十三坪なり

講堂訓話 生比奈校の訓話筆記は大部なり

塔の 美 彫刻構造の美は鶴林寺の塔なり

○棚 野 村

偃松 地上低く長く匍へるは山中石松酒卷清吉両氏なり

柑橘効勞 宮田辰藏氏寛政年間に植ゆ六万圓を産せ

廢兵牧場 渡邊少佐の企畫にて乳用肉用あり

特例銀杯始 溝田徳藏氏が三木正木間の新道開拓によれり

天然鳥居 楓が岩石と挿み鳥居形となり

○高 鉾 村

化石 本村に種々なる化石を産す採集すべし

木炭 木炭の産額十三万貫余一村として大なり

柿多 柿八万貫を出す一村として大なり

校訓 中村校の校訓は校名と冠せる特長あり

○福原村

森林 鉄道 原伊代次氏の計畫にて七哩の延長あり
牧牛の効勞 山田嘉十郎氏あり効勞銀杯と玉はきと
名ある牛 往昔八重地牛と産す鳳箠用たり

那賀郡の部

○立江町

烟花 立江町製造の烟花は立派あり
歴史 家 喜多文學博士は斯道の大家なり
地藏 尊 立江寺は靈驗著しく賽者多し
釋伽三尊像 全寺の國寶として珍幅なり
立江校紀念基金 初老還曆、凱施、卒業婚姻出産晋山の時を利用す
小文庫の良 榊淵小學校文庫は藏書千冊余あり
最勝經流布者 金光明最勝經流布者赤岩治平氏なり
他村所有なし 榊淵村は面積廣きも一村のもの所有せり
百幅對 三好賢古の筆に成り百幅あり

鐘樓の美 建築美的は立江寺にあり

○坂野村

軍人會 豐田中尉の組織となり維持鞏固あり

○今津浦村

もつこく大 直徑貳尺よして風致よきは神應寺にあり
十二天の幅 覺鏝上人の筆は神應寺あり
五葉松大 直徑貳尺余は全寺にあり

○羽ノ浦村

名判官 相馬事件にて名聲高き西川漸氏あり
圖書館長 大阪圖書館長文學士今井貫一氏なり
學校敷地寄附 澤田谷藏氏の中庄校敷地全部と寄附せり
代議士政事家 多年政事に奔走せし板東勘五郎氏あり

○平島村

仁王像 西光寺の仁王像は彫刻精巧なり
製材多 製材軒と并べ般賑なり

○中野島村

肉桂 大 中西字右衛門氏は廻り六尺貳十余本あり
狹き村 幅員狭きこと縣下第一なり

○富岡町

書畫珍品多 門外不出品を秘藏せるは神原五郎三郎氏なり
万年酒 銘酒醸造家は全氏なり

石灰製造 製造盛んなるは櫻野恒太郎氏なり

華族住居 賀島稻田両男爵あり

博物標本多 博物標本充滿は富岡中學校なり

生徒位牌 全校出身生徒の位牌は全校ふあり

○寶田村

面積狭き村 平面にて面積狭小なるは縣下一なり
開基古き寺 降禪寺は白鳳二年の開基なり

○見能林村

海に近き學校 答島尋常小學校は海に接せり

眺望神社 南海に沿ひ絶景眼中に入る津峯山なり

○橋浦村

良港 水深く風破の畏れなきは橋港なり

紅綬章始 人命を救助し之を玉はりしは黒田永吉氏なり

堅實石灰岩 本村鎧岩附近に産出多し

完全墜道 構造工事完全は橋の五十三間あり

○福井村

瓦製造 品質と生産高多し

○椿村

水産學校 椿泊水産補習學校は完全に近し

孤島 大 伊島と出羽島と大島あり

波濤 大 伊島近海之波浪高し

突出岬 蒲生田岬は突出數里なり

水産効勞 斯業に効勞ありしは久米勘四郎福島勝三郎両氏なり

小臺網始 該網使用一漁業せしは明治三十八年七月なり

○桑野村

楊梅 大 山口に産するもの顆粒大きく味佳なり
 碑文の美 老農田村藤平翁の碑は間然なし
 節婦 井原はる子金二十五圓と賞されたり
 規約貯金 山口小學校の貯金は成績大に可あり
 淵 桑野川と要水路の接點に在り常に濁れり
 ○長生村

二品家政所有 法華經後白河帝御下文は八銚社よあり

天然の石門 巨岩石門をなす水勢迫る所天工なり

梅園 赤谷の梅林は株數多きこと算へ難し

○大野村

木材標本 西村嘉平氏の熱心蒐集せしものなり

○加茂谷村

布教の雄辨 流辨人と感動せしむは松本泰信師あり

森殿寺 降劍場として有名の大龍寺なり

高塔 空に聳へ峨々たるは全寺の塔なり

水銀鑛 丹波博士の所有に属し日本一なり

龍の窟 奥行五十間あり畫猶暗く石灰岩に富めり

方丈の大 廣大莊嚴あるは大龍寺あり

○新野村

兒童美談會 新野小學校内にあり娛樂的趣味を帯び範とせべし

軍人土産 軍人の土産として寫眞砲彈其他保管せり

連絡青年會 要所に支會を設けて氣脈を通じ成績宜し

○鷺敷町

摸範林 縣有明治三十八年八月に施設なり

種類學校園 阿井校には植物種類二百本を栽植しあり

特色基本金 和喰校は紀念林下蒔苗圃の除草蓆紙より成せり

○相生村

結水 瀧 冬季結水せば水晶の如く美觀あり

○延野村

番茶の良 吉野茶と稱し品質優良なり

○日野谷村

日光反射少 本村は日光反射を受くること僅五時間の所あり

○宮濱村

水電發原地 本村より徳島へ延長十六里電柱千二百本あり

朴野茶 本村より茶二十五斤俵二百俵余を出す

一筆廣き山林 六百十三町ハ薩摩藤太郎氏の有なり

交叉の瀧 出合瀧と名づけ落水十二間奇觀なり

○坂洲木頭村

線水の瀧 千本瀧と言ふ落水三十間賞觀すべし

石室堆肥場 本村は天然の岩石の下と利用して堆肥とさせり

青藍苔 溪淵に美味なる青藍採るべし

円木道 路 黒瀧寺に登るに円木二本の上を通る絶壁木頭畏るべし

○澤谷村

高さ危岩 鑢岩と名づけ險岩千丈雲外に聳へり

海部郡の部

○阿部村

海士 海士が海草魚貝を採取するに上手なり

女子他國行商 海草類と頭に戴き至らざる國なり

景色よき庵 金龍庵は前に海後に山を負ひ絶景なり

檜柏樹の美 枝振りよき大木は喜多條延太郎氏なり

○三岐田村

具類採集家 兵庫首五郎氏は具類を寄附する道樂家なり

○日和佐町

貯金多額 本町は一人平均五十二圓余貯金せり町として日本一なり

摸範漁業組合 本町漁業組合は摸範として知らるゝなり

薬師如来 危除神として賽者常に絡釋たり

墜道の始 明治二十八年一坂墜道四十五間の開鑿あり

海景色良き寺 薬王寺よき立波を望色得も言はきき

○牟岐村

個人所有島 出羽島大島は青木七郎氏所有あり

教員は書家 中西環大塚榮平中瀬陸太三氏は今主義之なり

險難道路 八阪八濱とて名の如く山に登り砂を行くなり

アンチモニー 白木山に多量を産するなり

○浅川村

大なる 雑 見事なる衣裳雑は九岡記兵衛氏なり

○川東村

教員多敷 教育家の多敷輩出せしは本村三島村なり

松原の廣大 老松起伏幾千を知らざるは川東にあり

○川西村

鰻 大 母川に産す耳あり長きは貳尺残あり

○靱奥村

浸蝕 石 珍石多く出すは那佐の濱なり

貝類 家 標本家は三浦次太郎山西庄五郎両氏なり

法家拾集録 法螺貝の大小數百は靱日蓮にあり

○川上村

九十九瀧 轟瀧は幅六尺直下二十四間以下九十八瀧あり

廣き 村 本村は廣袤阿波郡に過ぐるなり

峠の 大 鎌子越は高さ三千尺以上昇降五里以上なり

○穴喰村

奇 石 盲目下を龜以下七あり探見せし

鯨 漁 規律正しき鯨捕漁地は本村なり

鷲住王遺趾 歴史家は研究と重ぬべし

南端 村 本縣の南端に位し高知縣甲浦に接せり

○下木頭村

小 村 本村は戸數百四十三戸あり珍しき小村なり

組合 村 下中木頭両村組合村は全國に稀なり

○中木頭村

蚊帳入らぬ 一年中蚊帳の不必要は本村なり

○上木頭村

針 金 橋 長さ數十間堅牢なるは本村にあぞ

名西郡の部

○石 井 町

藤 花 地福寺の藤花長きは三尺に垂るゝなり

滅罪寺の舊跡 法華滅罪寺の柱礎あり天正年間のものなり

佛 地福寺童學寺に藏書多し

最 古 建 築 童學寺の堂宇は古色蒼然たり

良 馬 石原泰次郎氏の飼馬は良し

尼 寺 古昔の尼寺は斯に研究すべし

郡役所の良 建築の美なるは名西郡役所なり

石 佛 浄土寺に地藏尊は西野家寄附にて宏大なり

○浦 庄 村

坐 像 の 大 下浦釋伽如來は坐像として大なり

空 費 節 約 祭典其他虚飾の費を節し慈惠院に寄附す

兒 童 會 各小學校に父兄の兒童會に盡く出席す

寺の維持法 瑞泉寺の維持法は柑橘の栽培に依れり

邸 宅 の 大 宏壯廣大は河崎万平氏なり

蘇 鉄 の 大 木 下浦釋伽堂より古木第一なり

○高 原 村

展 覽 室 展覽室の設備宜しく就て見るへし

山 茶 花 地勝寺にあぞ円筒状とあり稀なり

四 方 見 庭 性福寺の庭は意匠新新機軸なり

金 鈴 花 新宮社境内にあぞ古木蒼然たり

○入 田 村

感 化 的 用 水 故板東兵八氏苦辛に好紀念用水なり

植 木 商 本村に園藝家二十余戸あり珍卉を出す

○藍 畑 村

埴 土 遺 蹟 高畑村附近に就て研究すへし

勤王的義侠家 中島男爵小室信夫氏を援けし志摩利右衛門氏なり

○高 川 原 村

菅家遺蹟 天神村は菅原是善國司たゞし舊跡地なり
和算家 上田政市先生と山本無物齋先生は大家あり

○高志村

長堤 一直線に堤防を有し敷郡數村に接せり
大字 家 掌山大字を揮毫するに妙なり

○阿野村

持部鑛山 本縣鑛山として設備完全採掘豊富なり
牛馬の神 二宮神社は賽人常に踵を接するあり
氣質訓練 廣野校の氣質訓練は規範多し
わいろつふ始 持部鑛山に架設し重量品と運搬せり

○上分上山村

喧嘩役場 溪澗流水の爲め談論聞き難し

○神領村

蛭子岩 面積十余坪笑を含む蛭子尊なり
神領富士 遙かに之を望めば富士山に髣髴たり

美的墓 祖先崇敬の心を起すは太栗彦太郎家なり

散在醫士 藥品器械家具散在せるは林只一氏なり

裏見の瀧 雨乞瀧と言ひ飛泉後方より賞観すへし

○鬼籠龍野村

三者中心 神社村役場學校が全境内にあり

○下分上山村

寺院造林 燒山寺大龍寺に造林は地質面積罔然なり

小校に講堂 左右内校論田校は三學級に完全の講堂を有せり

板野郡の部

○撫養町

町 撫養町は三千二百余戸人口一万七千余人あり

○盤高島産の輸送印は名高し

小新聞 鳴門新聞は發行紙數少し

盤創始 慶長四年齋田に盤製造したり

和船大 山西庄五郎氏所有の和船噸數大なり

改良酒始 平野徳太郎多智花善十郎両氏効勞あり

宮内省買上酒始 明治四十年御買上は多智花善十郎氏なり

いふき大 田淵清一郎氏邸内よわ

精米所大 撫養精米所五十余回あり

一校勤務教員 明治十七年十二月卒業の瀬戸嘉喜太氏は勤續せり

家族多 天野屋は家族數十人一家に生活せり

足袋産額 一ヶ年に五十九万圓の産出あり

鹽産額 一ヶ年に四千五百万斤余の産出あり

町村長高給 撫養町長近藤眞三郎氏の三百六十圓あり

小學校長高給 撫養校長金重待次氏の四十五圓あり

女教育家 學習院教授萩原たつの女史なり

訓練中學校 撫養中學生は誠實勤勉にして敦厚の風あり

撫養石 石碑建築材料は適當は此地より出づるなり

○里浦村

蔬業園 整頓せるは里浦校と西麻植校と両校なり

校 族 高價なるものは里浦校の百圓余なり

教員配 置 教員の配置上完全なるは里浦校なり

摸範村 全國に名高し言ふを俟たざるなり

神社会併始 率先斷行せしは本村なり

手工實物細目 完全なるは里浦校なり

發電器 小學校に九十圓余の器械あるは里浦校なり

鳴門和布中興 明治貳十貳年村幸八氏之が製造と獎勵せり

磯男狹人舊蹟地 本村に古き歴史あり攻究すべし

舉家赤十字社員 村幸八氏家族一同入社せり

土産的寄附始 村長村幸八氏は旅行毎に土産と學校に寄附す

教員の席次 里浦校の校長より以下漸次上席とせり

會期短き村會 歳入歳出豫算會議が一日に議了す

牡丹の美 丹誠栽培家は村幸八氏なり

自治選獎始 摸範的は里浦村佐那河内村兩村なり

○鳴門村

潮水に近き役場 鳴門村役場は潮水に接し二間以内なり
 埋立敷地學校 鳴門校は一時に一万圓以上と支出せり
 天然一木門 馬目一木にて作る篠原彌次兵衛氏なり
 阿波國東端 東端に位する村なり
 村長と系圖 佐々木高綱の子孫にて朱塗鞍あり
 鳴門 世界の奇觀なり
 鹽田多く所有 谷崎元平村澤銀藏谷伊七郎三氏なり
 紀貫之舊蹟地 土佐泊校前の寺内にあり
 麥深 蔣 鳴門附近の麥蔣は深し
 暗礁多き 鳴門海峡暗礁多く危険なり

○瀬戸村

地圖掛の良き 明神校と河内南校両校完全なり
 一人寄附堂宇大 吉祥寺の薬師堂は泊吉右衛門氏の寄捨なり
 舉家教員 秋田加藏氏一家五人擧つて教員なり
 避病舎適地 海岸に臨み風色佳なる適地は本村と淺川村あり

硫酸マグネツシューム始 高島兵吉富田久太郎氏此地に製造せり
 天然の煙突 後山を利用し經濟的は全氏なり
 最古の經文 阿波井神社保存の大般若の殘冊なり
 月并發句續 明治十九年以來連綿の情厚社なり

○大津村

梨園 寺田善三郎氏の元祖にて産額十一万貫余なり
 平家講堂 堅牢と實用と兼備は大津東校なり

○堀江村

かめ焼 製造家十戸産出五万圓余なり
 裁縫室と手工室 堀江北校は獨立教室として完全なり
 がも發動機 精米機としての完備は松浦九兵衛氏なり
 義侠助役 明治大久保と名づけ信用ある藤本助役なり
 土御門帝舊蹟 御火葬地森嚴にして敬意を拂ふへし

○松茂村

上京者 故三木與吉郎氏は百三十七度上京せり

運動會義金 一村運動會に多額寄附は三木與吉郎氏なり
砂の種類 各國の砂を集拾せるは全氏なり
六角堂 本村三十三所札所の内にあり完全の堂なり

○北島村

身長高さ 山伏の磯はんは身長六尺余あり
電柱の高さ 綱濱の電柱は高さ一百尺に余れり
戦利品周到保存 北島北校は総て袋入となし棚に保存せり
慈善箱 北島北校は恵れ露と名づけ遅刻の職員は罰金を出す

○川内村

平庭築山美 小松英夫氏の庭造は好資料なり
廣き原野 小松新田原野は面積二二七町あり
鳥居大 宮島金刀比羅神社は花崗石なり
大字多く 本村は大字十八を有せり
初期以來代議士 初期以來経續は橋本久太郎氏なり
渡船長距離 鈴江渡は四百間余あり

馬目の良木 自性寺より圓筒状をなす良木なり
勅語學校園 川内南校へ盡忠盡孝に區分し無缺なり
村長の大膽 放膽おして度量大なるは喜田富藏氏なり

○應神村

本草家 斯界の大家は小原春藏先生なり
長さ橋 三百五間ある古川橋あり
特別室の完備 講堂雨中体操場裁縫室運動場併進は應神校なり
雨中体操場 小學校として應神校完全なり

○住吉村

楠れ直徑大 矢上の楠は五六人にて之を廻すへし
深水地 洪水れ爲め水の去らざるは祥瑞なり
平面に在る高松 見性寺にあり數里より之と望むへし
地搗の上手 本村の地搗は棒の揚がること第一あり
三好細川遺趾 本村附近は歴史研究の好地なり
佛畫家 筆力非凡は三好賢古先生なり

聲 明 家 山口智息羯磨真城兩師なり
機械排水の始 神藏組合の設置が最も始なり

○板 東 村

古き桑園 文久年間森幸平氏が一町六反余の桑園を造れり
驛 路 鈴 四道將軍時代は古物は永井精浦氏に在り
塚穴の研究地 大麻社近傍と重清舊城附近あり
武徳會員始 明治二十八年九月富永壽一郎氏正會員とあきり
櫟 林 多く 本村の北部は至る所に大なる林あり
森 嚴 神社 前に川と并松を控へ後山を負へる大麻彦神社なり
記 憶 易き寺 四國靈場一番れ札所靈山寺なり
部 落 の 御 筒 市場の特種部落備付は完全なり
古 き 墓 光勝院にある細川頼時の古墳なり

○藍 園 村

臥 龍 梅 千光寺の梅は虬龍の蜿蜒たるが如し
寶 藥 成 効 敬震丹の發賣元犬伏九郎左衛門氏なり

夏 藍 産 地 本村に産する藍は名高し

○板 西 町

建築よき分署 比較的よきは大寺分署あり
養 蠶 家 一ヶ年百石以上飼育するは河井美代吉氏なり
繭種製造家 一ヶ年原種用一万三千枚製造は全氏あり
信用組合建築 事務所新築せしは縣下の始なり
淨瑠璃實地家 理論と實地と精通は吉岡熊次郎氏なり
五 葉 松 美 妙藥寺は大にして枝葉蒼然たり
應用固定円木 板西校の備付は一點の批評あり
九年欠勤なし 全校長淺井春藏氏は九年間一日の欠勤なし
縣會議長始 吉田次郎氏明治十四年就職せり

○榮 村

森の名高き 栖養の森は古歌ふ詠せられし名森なり

○松 坂 村

五百羅漢 木像よて時代と廓大は日本一あり

蠶業講習の始 明治初年松坂社あり最も古し
忠 婢 幼年を輔け二十三年勤めし山本たね子なり

○大山村

裁縫訓導高給 東光校宮井訓導は十八圓なり
并松の多 數万の老松が屈曲羊腸迂るは大山寺なり
銅 經 筒 國寶として珍重さるゝは大山寺にあり
御興と樂隊始 家臺を廢し樂隊を興し敬神と厚くせり
町村役場倉庫 大山村役場の倉は完全に近し

○一條村

風 織 園 職員生徒の勞力になれるは一條校なり
棒と記念 先祖使用して成功せし棒は大串龍太郎家にあり

○松島村

校 醫 多 校醫多きは松島校は三名なり
大木學校園 比較的大木を移植せるは松島校なり
章魚形金鈴花 章魚と轉倒せる如きは八坂神社にあり

醫 七 代 林久雄氏は七代繼續の醫家なり

甘蔗栽培始 安永生年間丸山徳彌氏の創意なり

甘蔗製造始 安永年間全氏製造せり

○御所村

町村役場摸範 本村鳴門生比奈は摸範建築なり

畫 大 安樂寺天井と岸恭の龍にて十余坪あり

林 檜 畑 柴田久太郎氏の栽植は一町五反余歩なり

○北灘村

北 端 村 本縣の北端に位し風色絶佳なり

長さ海岸線 一村として一直線に海岸線四里半を有せり

國見の役場 北灘村役場は坐して七國を瞰むべし

大字の壹戸 碁浦鶴岡新田は戸數各一戸あり

さばてん大 大西愛藏氏前庭あり一本三坪以上あり

蘇鐵の良 朝鮮種しかも簇出せるは大西万右衛門氏なり

眼 の 神 葛城神社は賽人常に多し

阿波郡の部

○柿島村

村 葬 始 故柿島村長笠井道藏氏は自治効勞者なり

桑園 所有 個人として桑園三十町余歩は片岡多三郎氏なり

○土成村

山門 大 熊谷寺にあり宏大なる四國一あり

分家 多 矢部廣次氏を本家として外十二戸あり

ひびろ倉 一木にて建築せしは古川三郎氏なり

煙突 大 二間正方あるは全氏なり

○八幡町

桃園れ面積 個人として桃園廣きは釋智憲氏なり

無錢渡 四國通路に限り粟島渡は無錢なり

大塔 時代古く建築資料とすべきは切幡寺なり

西方彌陀松 切幡寺仁王門の西側にあり枝盡く西に向へり

八祖大師木像 切幡寺の頂上に安置し禮拜者多し

○市場町

根上り松 根の上り高さこと一丈余板野の松より宜し

もち大木 妹尾卯太郎氏の前庭にあり車輪形なり

梅古木 多 古木數百株を植ゆるは三浦多四郎氏なり

○大俣村

楨垣の美 楨樹絡繹六十間余は松永徳弘氏あり

大なる池 上池と稱す一回せば一時間を要すなり

銀杏の大 老樹參天たると阿讃國境にあり

○久勝村

水量多き池 灌溉百町余水量多きは別楚の池なり

彫刻の平家 彫刻美を争へるは川人善藏丸浦幸三郎両氏なり

擊劔家 明治武藏の稱ある山根正雄氏あり

○伊澤村

六十一庚申 正方形に六十一庚申の并列するなり

酒倉の良 酒倉に多額要せしは割石易次郎氏なり

○林 村

神代文字の碑 岩津阜頭にある花香翁の詠歌なり
楠一木の神社 日吉神社の楠一木にて建築せり

歌 人 天下漫遊名吟多きは岩雲花香先生あり

波 濤 岳 山岳波の寄るが如し故よ名づくるなり

さつ木 大 面積十坪余を有すは常圓寺なり

景色よき渡船 青潭の間に奇岩隠顯せるは得も言はれず

五階煙突 佐光利八郎氏の建築宏壯なり

短 尺 身長二尺八寸は石本保氏なり

麻植郡の部

○牛 島 村

白瓜の良 大きく品質良きは本村の白瓜なり

○森 山 村

大なる水車 規模構造の大は渡邊茂平氏なり

○西 尾 村

代議士洋行 米國へ渡航し實業上の調査をなせしは須見代議士なり

個人の架橋 須見の惠橋を架し交通に便せしは全氏なり

擊劍道場 整頓せし道場は全家の門前にあり

人物養成家 多年人物養成は近藤慶平氏なり

法律藏書家 數千冊を珍藏するは須見忠次郎氏なり

飛石の大 全家の前庭にある青岩は六間余あり

實業成功 郵船會社長近藤慶平氏なり

竹垣 竹垣の美なるは工藤源助氏なり

中陽曆 曆學革命家は工藤茂三郎氏あり

桑園の完全 桑園の模範は工藤虎吉氏なり

藍汁鑑識家 阿波れ前田と謳はる工藤半平氏なり

生糸賣買効勞 創業古く効勞家は前田治平氏なり

○鴨 島 町

一所廣山林 川真出市太郎大久保辨太郎両氏なり

泉れ完全 泉に大金を投じ清潔なるは川真田恒平氏なり

古金銀所有 古金銀の貯藏家は全氏なり

湯殿 完全 個人經營として完全は全氏なり

住宅の巨大 宏壯巨大なるは川真山代議士なり

春畝遺墨多 秘藏すること多は川真田代議士なり

庭石の大 單個石の巨大は川真田代議士なり

高僧 管長として學徳兼備は泉智等親下なり

○川 島 町

培烙 火鉢 帳場備火鉢の質素は後藤田千一氏なり

謡曲 堪能 音聲調節故實精通は全氏なり

貴重書 畫幅 三山沈字は全家に秘藏せり

勅題畫幅多 年々勅題畫を保存するは全氏なり

一町所有者 廣島市中に後藤田町あり

飛白の効勞 製造販賣に効あると伊勢文平氏なり

川島 焼 培烙と製造する家多く産額大なり

風色郡役所 麻植郡役所は眺望絶佳なり

○學 島 村

大 聲 家 對談數町に聞ゆるは岩瀬良吾氏なり

○東 山 村

山間學校完全 實用と完全建築は山間の東山校あり

○山 瀬 村

公 共 熱 心 軍事教育其他奮闘家は住友春太郎氏なり

堅牢の石橋 花崗石にて長さ一百十九尺ある螢橋あり

競馬場の良 芳川よ添ひ林間に并びたるは瀬詰なり

位記高き村長 故正七位安部省三郎氏なり

邸宅と景色 山を負ひ廣野螢川を望むは尾賀正三郎氏なり

瀬界の文章家 斯界の文章家は平野愛妍氏なり

堤上の村役場 本村役場は堤防上の位置を占めり

實習地寄附 富本平三郎氏は瀬詰校廣き地所寄附せり

○川 田 村

一本櫻の美 潮光寺の櫻花は美且つ大なり

官界の成效 伯爵芳川顯正氏あり

角 力 昔の一本と劔山は角力界の大關なり

氷 豆 腐 高越山に産するもの多額なり

造林栽培家 和田熊三郎氏効勞大なり

製紙効勞 故原田虎藏氏の改良販路も効あり

大石材の橋 大石橋は山尾嘉八氏斡旋の効多し

涅槃像 高越寺の國寶之逸品なり

○三山村

頂上村役場 山頂にあつて不便なるは三山村役場なり

○中枝村

百日紅大 東宮城の古木は徑四尺余あり

○木屋平村

古き住宅 質朴古色蒼然は三木宗次郎氏なり

栗榎材學校 栗八分榎二分の用材は木屋平校なり

住宅の完全 三つ木山氏の住宅は立派なり

植物標本家 笠井木屋平校長は二千余を採取せり
板 碑 石の薄き碑は本村に二十有余あり

美馬郡の部

○脇町

石礎多額 礎石に多額を要し堅牢は大石光郎氏なり

空 池 大にして水無きは北の庄の南部にあり

繭乾燥器大 一時に二千貫と乾燥し得るは生田澤之助氏なり

山林所有多 小笠兵太郎山本仁平氏などなり

佛學家 佐伯旭雄東禪城釋縮律嚴師あり

○江原村

砂防完全 全工事の施設完全は曾江山一帯なり

礮の大 礮は面積大なるは拜原礮あり

實用雨中体操場 夏子校は吹抜遊葺にて質素なり

修成派管長 本村輩出の新田邦輝先生なり

○岩倉村

学校の唧筒 岩倉校は三百圓余のポンプ備付あり
作法室完全 建築裝飾宜しきは岩倉校あり

○郡 里 村

耕地整理 成工の曉良き耕地となるは郡里林村なり

縣知事昇進 曾我部道夫氏始て知事に就職せり

清 國 通 文學士藤田豊八氏は泰斗なり

筋塀の始 本村安樂寺の塀は最古あり

山門の古き 長曾我部元親時代の安樂寺の山門なり

○重 清 村

勳 王 家 正五位美馬援造氏は位記追贈の始なり

天然牧場 芳川に添ひ面積廣く好牧場なり

名門歴訪家 荒岡敏十郎來代帶川両氏は訪問家なり

○半 田 村

縁授章の始 漆器製造販賣効ありし大久保辨太郎氏なり

綿行成功 大阪市にて成功せしは半田綿行なり

耕地整理の應用 斜面の耕地整理を行ひ余水と水力に應用せり

○半 田 奥 山 村

湖水に近き學校 本村に小學校は流よ沿ひたる所にあり

○貞 光 町

清潔の寺院 本村の眞光寺と御所れ十樂寺なり

○端 山 村

葉煙草の始 元祿年間三好氏本村に葉煙草栽培せしめたり

土 釜 天然石にて成り三釜に混々たる景傑然たり

七 折 の 瀧 鳴谷よりの落水は黒木林に間を走れるなり

蛇 卷 石 巨蟒の石と卷ける鱗眼歴々たり

○一 字 村

椎茸蓄殖家 斯界の効勞家は近藤政八氏なり

高地の學校 本村の片川校は山頂中腹にあり

筆道陶汰家 陶汰論の鼓吹者は都郷角太郎氏なり

大理 石 本村産出は品質良好なり

番柿の良 荷造完全佳味なるは本村の柿なり

七三

○三 島 村

醫學博士始 獨乙にて研究せし三宅博士なり

榎の大木 全家の東庭にあらず古木雅致あり

實利學校園 柑橋一木を斜地に栽培せしは三島校なり

景色よき寺 後に天然山と負ひ芳川に臨み神秀なり

竹林の美と適地は第一なり

字書著述家 諺解を多數著述せしは堤大少先生なり

樺太渡航始 偉傑岡本章庵先生なり

北海開拓の光明 閉拓判官たゞし岡本監輔氏あり

懸腕直筆家 三宅舞村先生は詩文小長せる書家なり

○穴 吹 村

潜水橋 長さ五十間あり洪水は橋上を走るへ

方行の大 享保寺の方行は構造大なり

○口 山 村

元日櫻美 尾方某の櫻樹は行人足を止むへ

○半 平 山 村

三種栽培の始 新田重次郎氏へ卒先之の栽培をなせり

○東祖谷山村

物價高有 交通不便の爲め輸入は高く輸出は安し

天然の橋 釣井の羽根橋は天然に成り人工加はらず

平家遺物多 赤旗を始め遺物多きは阿佐幾太郎氏なり

○西祖谷山村

危険橋 善徳の蔓の橋三十三間ありて奇景なり

風流橋 機生の芝の橋は風流にて畫本なり

不閉戸美風 戸を閉ぢざること數十年の家あるも賊入らず

三好郡の部

○三 野 村

高さ堤防 吐出し砂石の爲れ堤防殊に高し

○畫 間 村

奇 人 國學に通し奇行家へ近藤忠直氏なり

○箸藏村

夜具 大蒲團一枚にて數十人臥せるは箸藏寺なり

山上競馬場 山腹にあり良き競馬場は全寺にあり

燈籠 大 全寺の備付は高大なり

堂宇輪典 彫刻美々しきは全寺なり

八祖畫大 全寺の珍藏は面積大なり

境内廣き寺 全寺の境内は廣漠なり

風穴の良 本村の風穴は飄種保存に適地なり

薄の美 美なる盆栽を有せるは來代帶川先生なり

○足代村

年少檢事 年少にて檢事となりしは秋田清氏なり

○佐馬地村

西端の村 佐馬地村は本縣の西端に位せり

聖衆來迎圖 雲邊寺の國寶は逸品なり

聖衆來迎圖 雲邊寺の國寶は逸品なり

○山城谷村

村の 大戸數一千五百六十七戸あるは本村なり

高き 橋 水面を去ること一尺は川口橋なり

若年村長 本村長山下鹿三郎氏は明治十三年生なり

麥の良き 本村の麥は品質良なり

鮎漁地 本村の鮎戸瀬は一日の捕獲數万あり

○三名村

奇景珍石 名負ふ大歩危小歩危は絶景なり

○三細村

青年會特長 本村の二宮會次は新野佐那河内なり

天然學校園 天然の地形を利用し風緻よきは三細校なり

○池田町

由緒ある池 古池と稱し山田古嗣の水田用お堀りしなり

水道敷設始 本町水道敷設の結果衛生上大に得る所あり

煙草販路効勞 斯業に効勞ありしは中村和右衛門氏なり
築山の美 三木亨氏所有は天工人工を得て審美なり
煙草製造始 寛政十一年中村武左衛門氏之と創めた
煙草製造多 本町職工千四百人煙草二十三万貫金貳百十萬圓なり
物置の大 專賣所の物置は長大あり
建築よき警察署 三好郡池田警察署あり

○辻 町

八重櫻れ美 花辨大きく美あるは本町にあり
揚柳觀音 長樂寺の畫幅は國寶なり
學校基本多 金壹万圓積立辻小學校なり
川中の奇岩 箕田れ奇岩川中に點綴し辻松島あり
水力電氣始 本町水力電氣は卒先あり
避病舎完全 結構設備完全に近きは辻町にあり

○井内 谷 村

學校の植林 井内谷校は明治三十六年山林十五町歩を植林せり

○加 茂 村

楠の大木 直徑と長さど比例したる大木なり
鉄工所成功 斯業研究に渡米し成功者は田岡忠次郎氏なり
○三 庄 村
般若菩薩 長善寺の國寶は逸品なり

阿波特有の名産ぶり

鳴門産嶋松わかめ

島みやげにははまふし

明治四十四年三月廿五日印刷
全 年三月廿七日發行

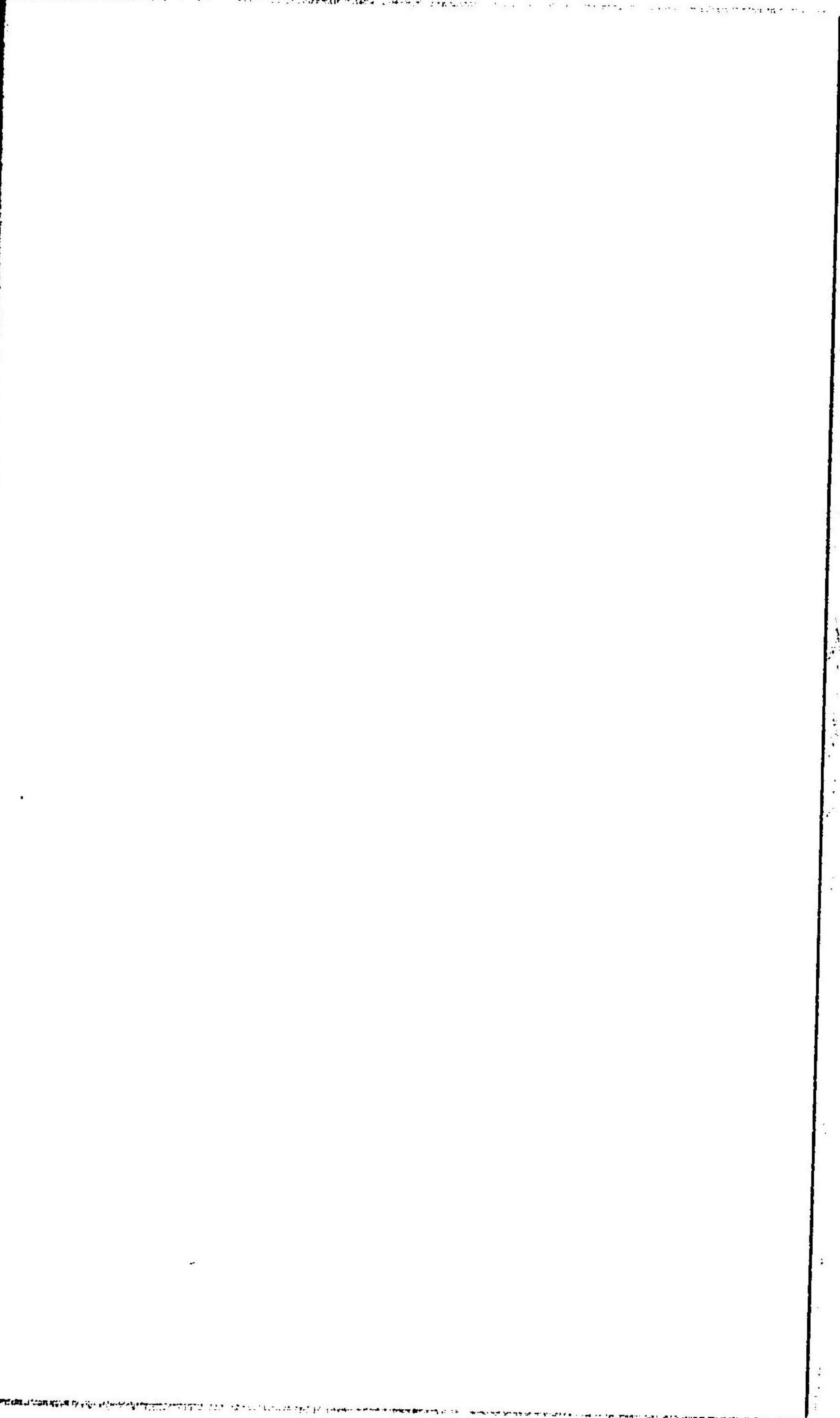
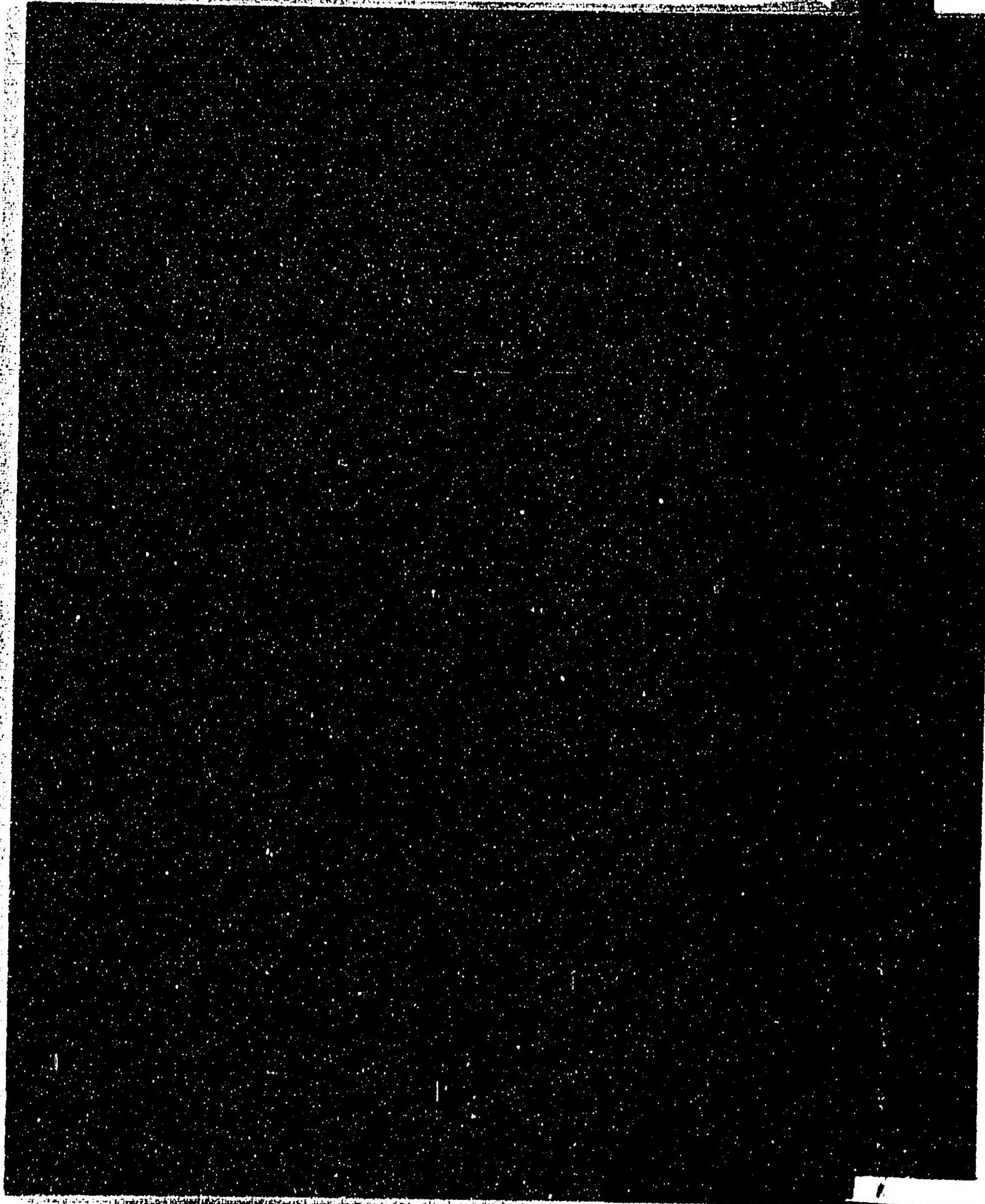
徳島縣徳島市大字北山路町七十七番地ノ二
編輯兼 發行 者 柏 木 直 平

徳島縣徳島市大字安宅村百六十二番屋敷
印刷者 伊 川 宜 吉

徳島縣徳島市中通町字北側壹番地
印刷所 芳 川 堂 活 版 部



S-20



53
2

徳島県の唯一と嚆矢

026106-000-8

特53-372

徳島県の唯一と嚆矢

柏木 直平 / 編

M44

ADC-3763



